

I Cカードの乗車実績データに基づく
敬老パスの利用状況等分析調査報告書
(概要版)

平成 30 年 7 月
名古屋市健康福祉局

1 ICカードの乗車実績データに基づく敬老パスの利用状況

(1) 主な結果

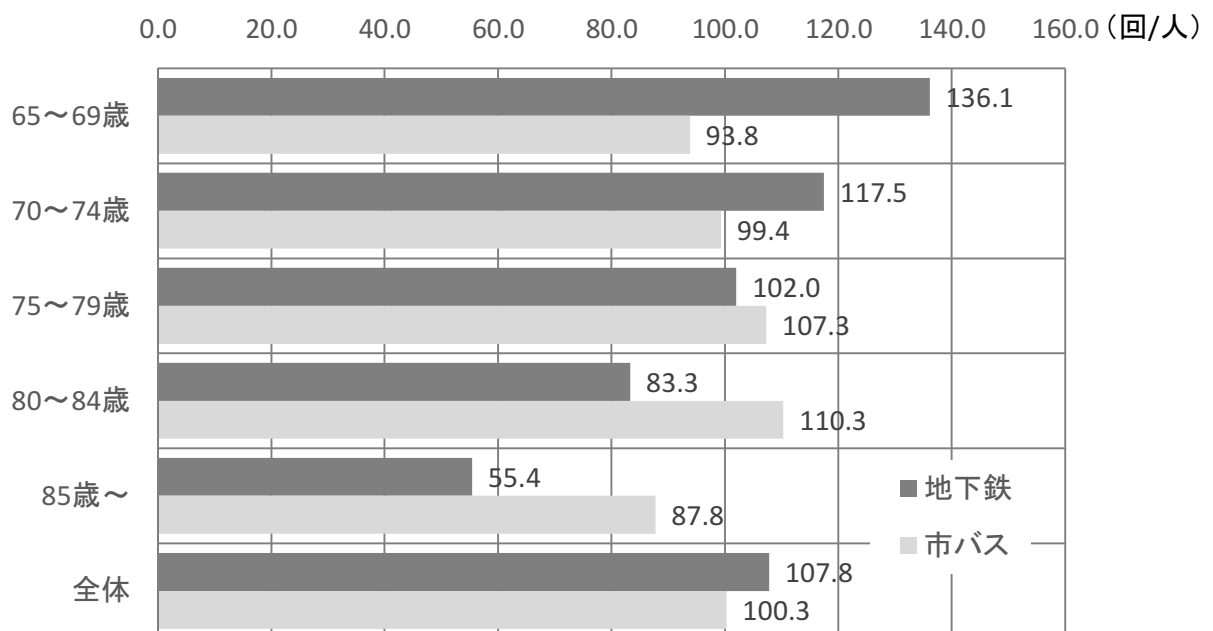
(データの内容及び利用回数の計上方法)

データの 内 容	・市営交通(市バス・地下鉄)の乗車実績データを対象とし、ゆとりーとライン(高架・平面区間)及びあおなみ線の乗車実績データを含まない。 ・「年間・交付者一人当たり」・・・平成29年3月～平成30年2月の乗車実績を、各月末現在有効な敬老パスの交付数の平均値で除して算出 ・「年間」・・・平成29年3月～平成30年2月の乗車実績を集計 ・「6か月間・交付者一人当たり」・・・平成29年3月末現在有効な敬老パスを所有している人の平成29年3月～平成29年8月の乗車実績を、その人数で除して算出
利用回数の 計上方法	・市バスの利用回数・・・市バスを乗車するごとに1回として計上 ・地下鉄の利用回数・・・市営地下鉄駅(上小田井駅及び上飯田駅を除く。)の改札を出るごとに1回として計上

ア 年齢区分別利用回数(年間・交付者一人当たり)

交付者一人当たりの利用回数は、地下鉄は年齢が高くなると少なくなるが、市バスは80～84歳が最も多い。

図表 年齢区分別利用回数

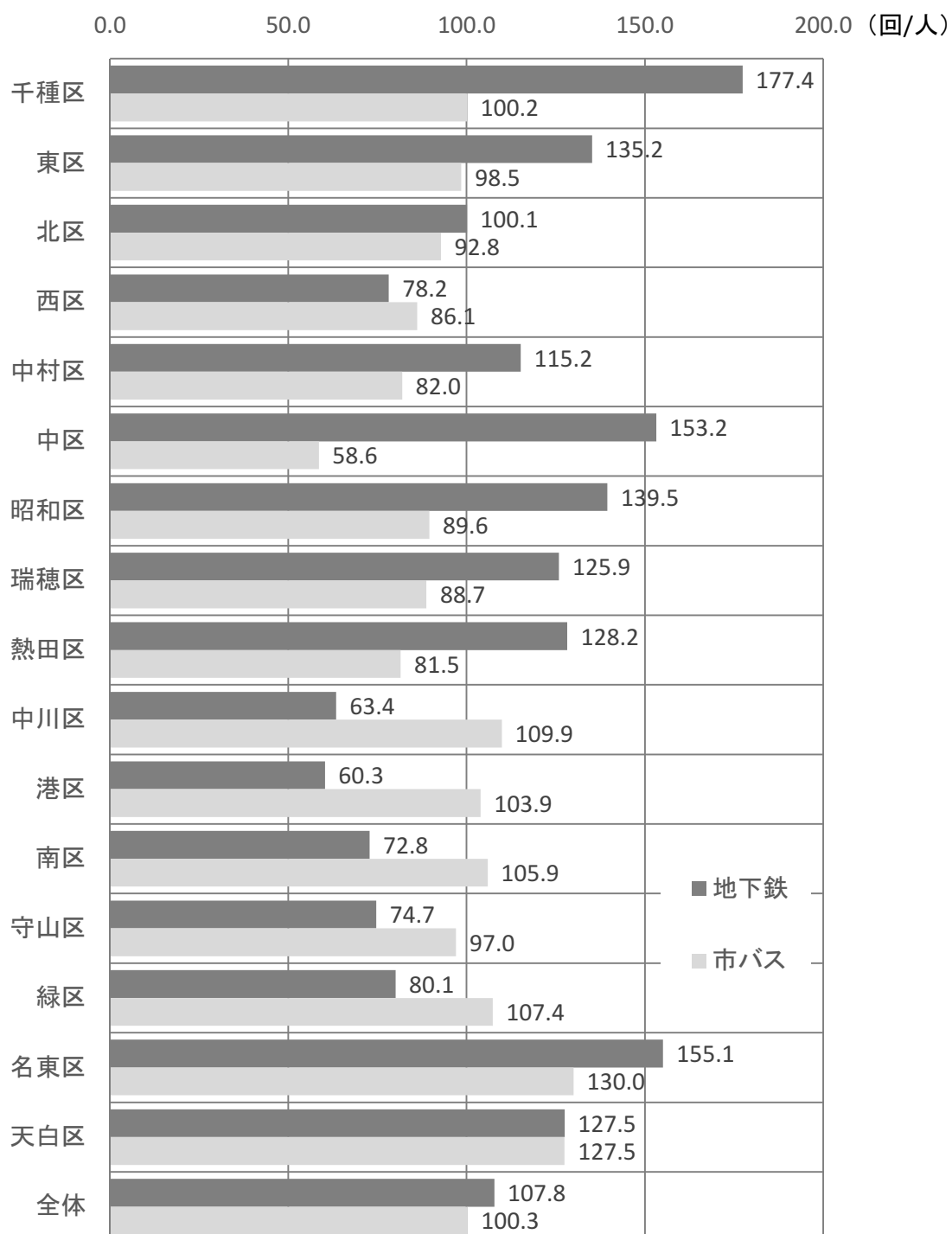


イ 居住区別利用回数（年間・交付者一人当たり）

交付者一人当たりの利用回数は、地下鉄は千種区、名東区の順で多く、市バスは名東区、天白区の順で多い。

また、中川区や港区、南区等では、地下鉄よりも市バスの利用が多い。

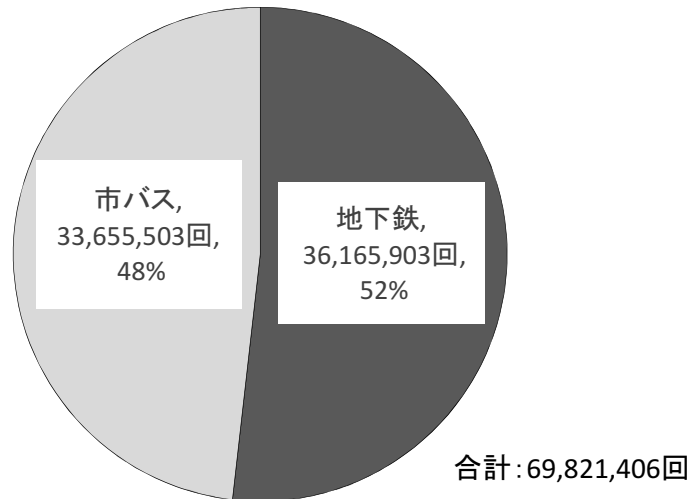
図表 居住区別利用回数



ウ 機関別利用回数（年間）

市バスと地下鉄の利用回数はほぼ同等である。

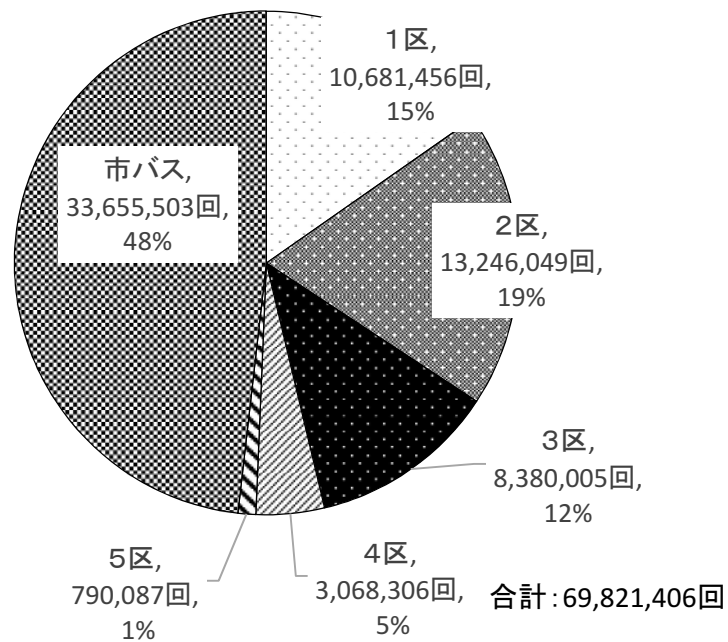
図表 機関別利用回数



エ 市バス・地下鉄区間別利用回数（年間）

地下鉄の利用回数は「2区」が最も多く、次いで「1区」、「3区」が多い。

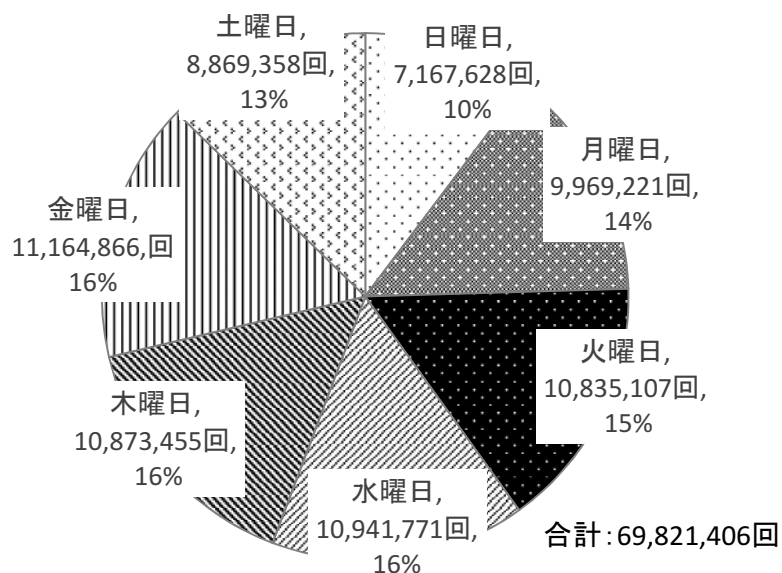
図表 市バス・地下鉄区間別利用回数



オ 曜日別利用回数（年間）

土曜日と日曜日の利用回数は平日よりも少なく、日曜日が最も少ない。

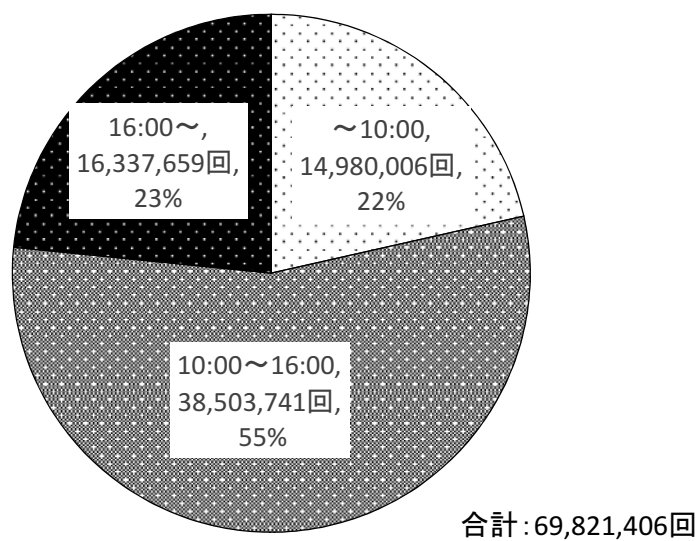
図表 曜日別利用回数



カ 時間帯別利用回数（年間）

「10:00～16:00」の利用回数が半数を超えて最も多い。

図表 時間帯別利用回数

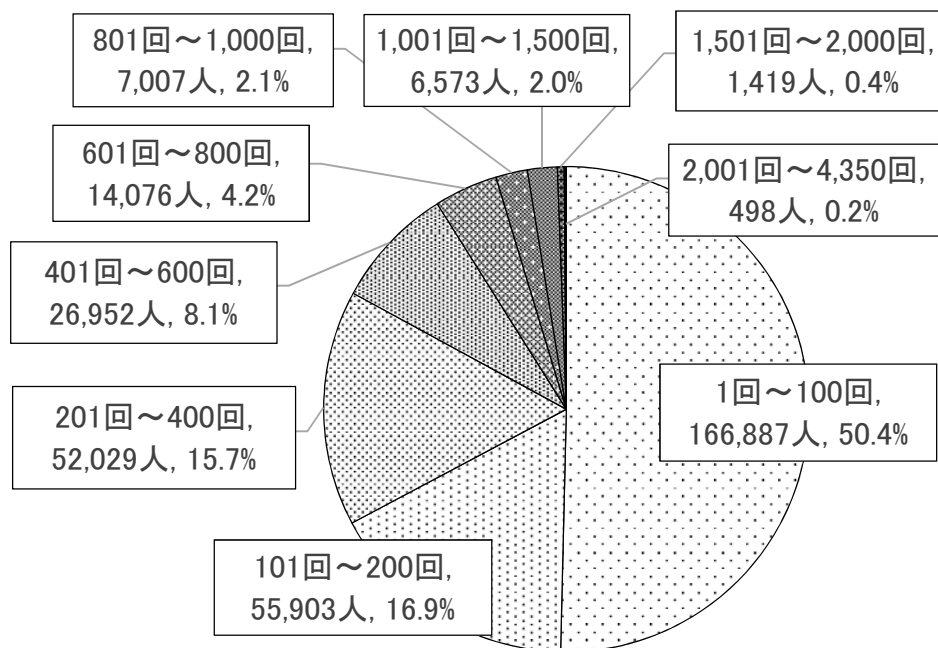


キ 利用回数・利用金額の人数分布（年間）

【利用回数】

一人当たりの年間の平均利用回数は210.7回であるが、100回以下の人が約5割を占める一方で、2,000回を超えて利用する人もいる。

図表 利用回数別の人数と割合（市バス・地下鉄合計）



n=331,344 人(0回利用者を含まない。)

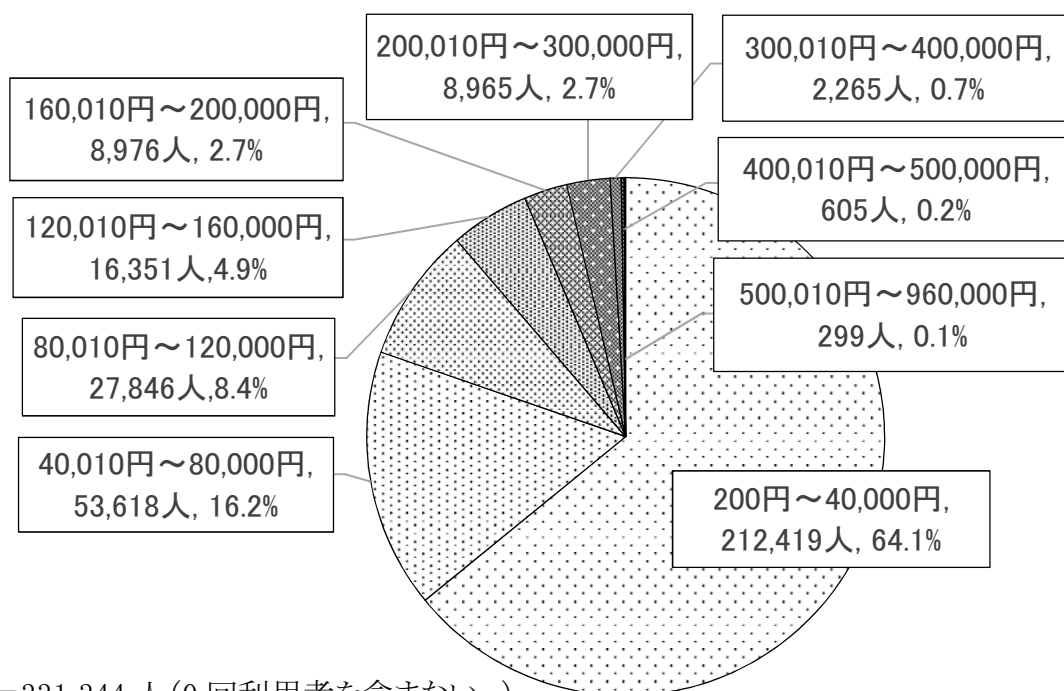
一人当たりの年間平均利用回数 210.7 回

年間利用回数	1週間当たり概ね換算	人数(人)	割合(%)
1回 ～ 100回	2回未満	166,887	50.4
101回 ～ 200回	2回 ～ 4回未満	55,903	16.9
201回 ～ 400回	4回 ～ 8回未満	52,029	15.7
401回 ～ 600回	8回 ～ 12回未満	26,952	8.1
601回 ～ 800回	12回 ～ 16回未満	14,076	4.2
801回 ～ 1,000回	16回 ～ 20回未満	7,007	2.1
1,001回 ～ 1,500回	20回 ～ 29回未満	6,573	2.0
1,501回 ～ 2,000回	29回 ～ 39回未満	1,419	0.4
2,001回 ～ 4,350回	39回 ～ 84回未満	498	0.2
計		331,344	100.0

【利用金額】

一人当たりの年間の平均利用金額は47,770円であるが、4万円以下の人
が6割以上を占める一方で、50万円を超えて利用する人もいる。

図表 利用金額別の人数と割合（市バス・地下鉄合計）



n=331,344 人(0回利用者を含まない。)

一人当たりの年間平均利用金額 47,770 円

一回当たりの平均利用金額 226.7 円

年間利用金額	人数(人)	割合(%)
200 円 ～ 40,000 円	212,419	64.1
40,010 円 ～ 80,000 円	53,618	16.2
80,010 円 ～ 120,000 円	27,846	8.4
120,010 円 ～ 160,000 円	16,351	4.9
160,010 円 ～ 200,000 円	8,976	2.7
200,010 円 ～ 300,000 円	8,965	2.7
300,010 円 ～ 400,000 円	2,265	0.7
400,010 円 ～ 500,000 円	605	0.2
500,010 円 ～ 960,000 円	299	0.1
計	331,344	100.0

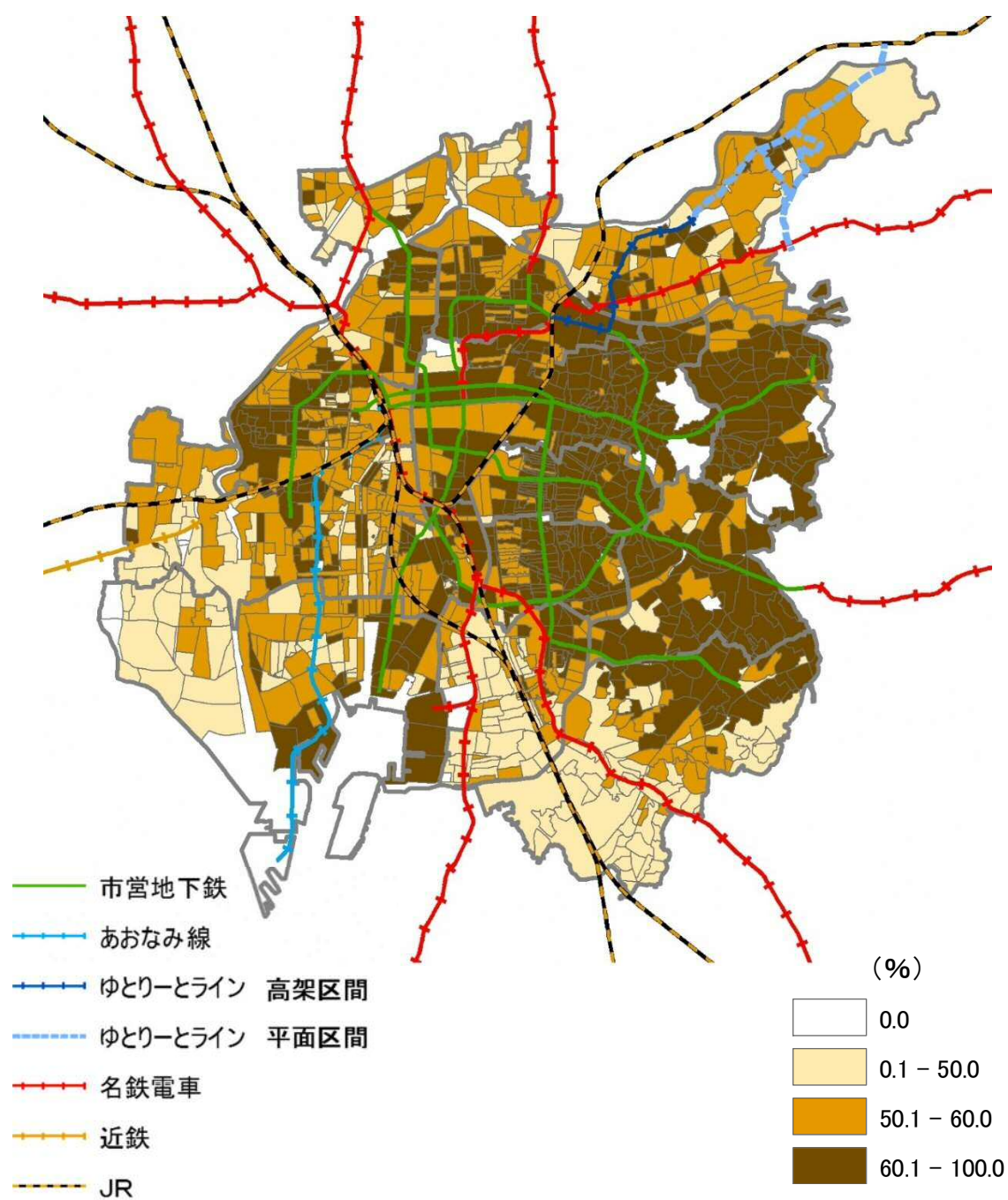
注：「利用金額」は、利用回数に市バス及び地下鉄の各区間の単価（割引前）
を乗じて算出

ク 居住地域別の利用状況

【交付率（平成29年3月31日現在）】

居住地域別の交付率は、市の東部、特に地下鉄の沿線地域で高い。

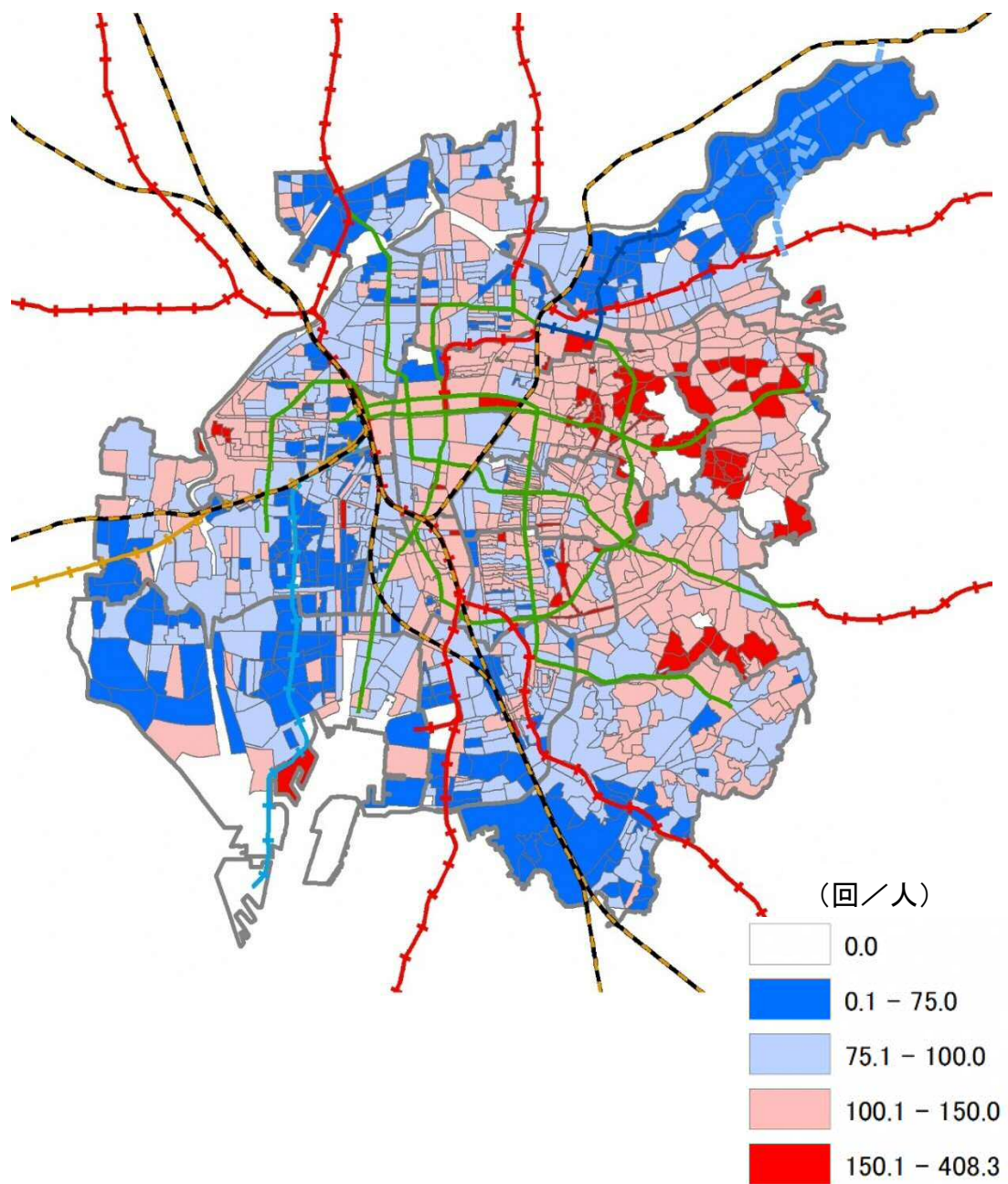
図表 交付率



【市バス及び地下鉄の利用回数の計（6か月間・交付者一人当たり）】

居住地域別の交付者一人当たりの市バス及び地下鉄の利用回数の計は、市の東部で多い。

図表 市バス及び地下鉄の利用回数の計

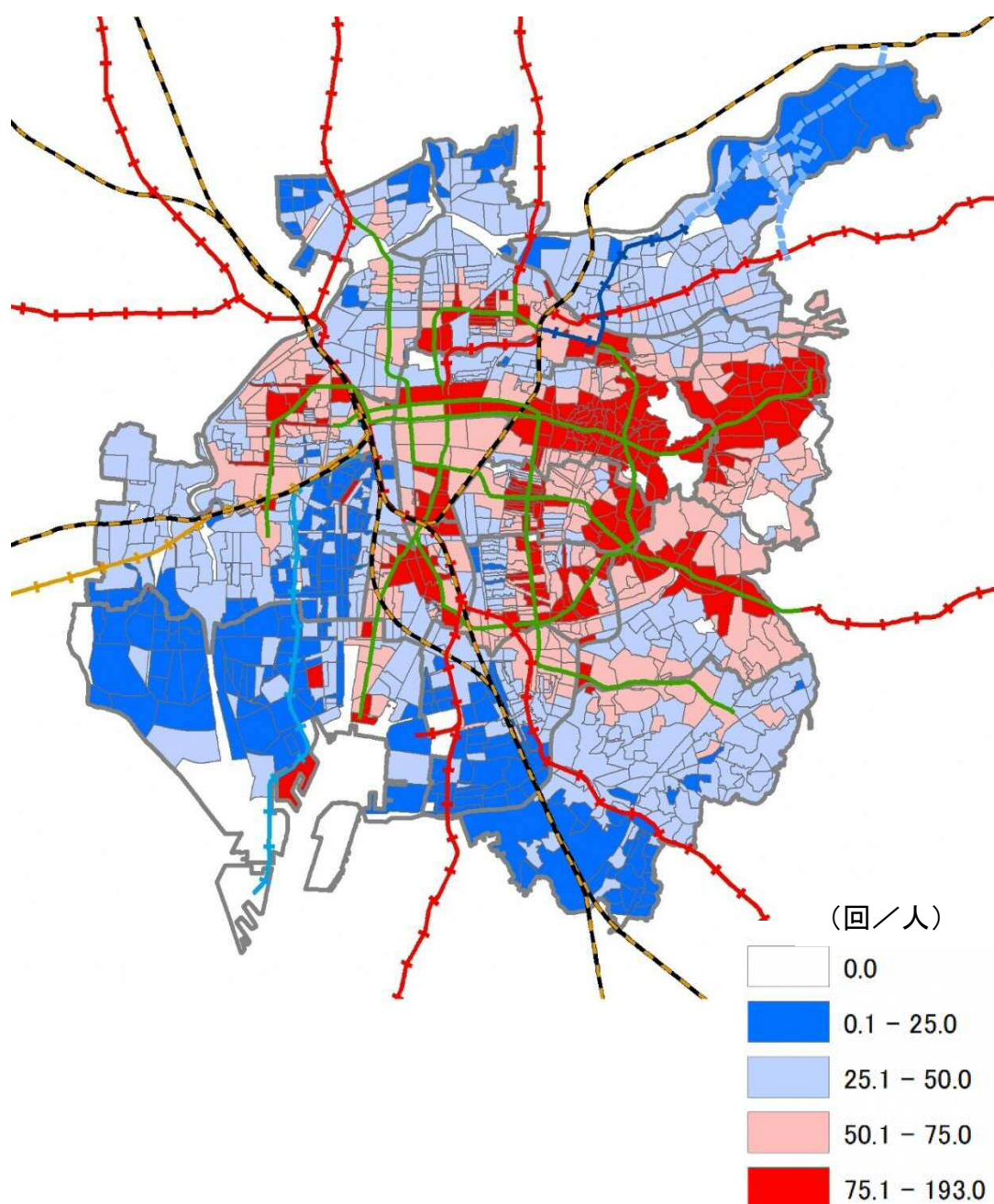


注：利用回数はゆとりーとライン（高架・平面区間）及びあおなみ線を含まない。

【地下鉄利用回数（6 か月間・交付者一人当たり）】

居住地域別の交付者一人当たりの地下鉄利用回数は、地下鉄の沿線地域が多い。

図表 地下鉄利用回数

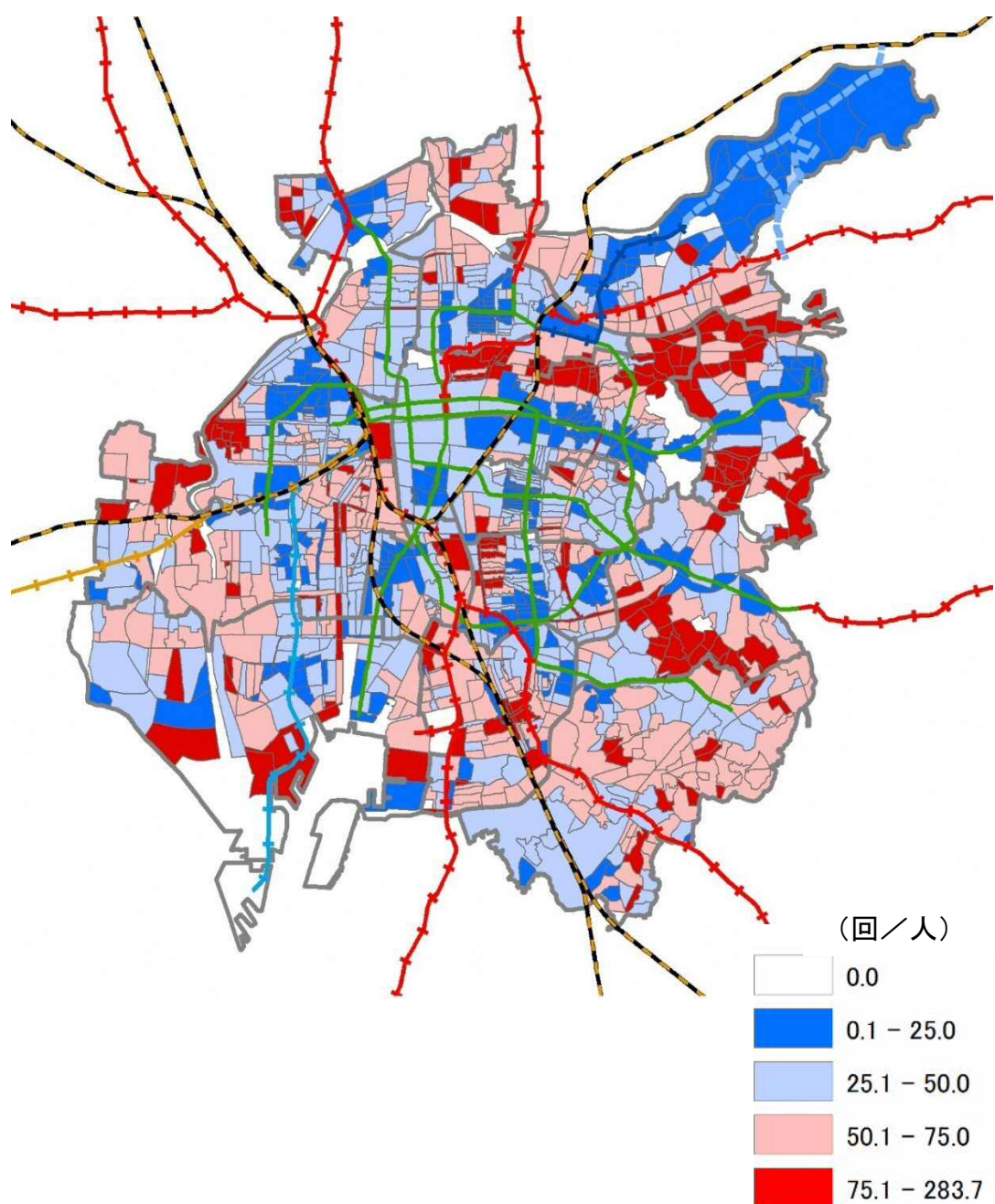


注：利用回数はゆとりーとライン（高架・平面区間）及びあおなみ線を含まない。

【市バス利用回数（6か月間・交付者一人当たり）】

居住地域別の交付者一人当たりの市バス利用回数は、地下鉄の沿線地域を除いた地域で多い。

図表 市バス利用回数



注：利用回数はゆとりーとライン（高架・平面区間）を含まない。

(2) まとめ

(年齢区分別利用回数)

- ・ 交付者一人当たりの利用回数は、地下鉄は年齢が高くなると少なくなるが、市バスは80～84歳が最も多い。

(居住区別利用回数)

- ・ 交付者一人当たりの利用回数は、地下鉄は千種区、名東区の順で多く、市バスは名東区、天白区の順で多い。また、中川区や港区、南区等では、地下鉄よりも市バスの利用が多い。

(機関別及び区間別利用回数)

- ・ 市バスと地下鉄の利用回数はほぼ同等である。
- ・ 地下鉄の利用回数は「2区」が最も多く、次いで「1区」、「3区」が多い。

(曜日別及び時間帯別利用回数)

- ・ 土曜日と日曜日の利用回数は平日よりも少なく、日曜日が最も少ない。
- ・ 時間帯別では、「10:00～16:00」の利用回数が半数を超えて最も多い。

(利用回数・利用金額の人数分布)

- ・ 一人当たりの年間の平均利用回数は210.7回であるが、100回以下の人が約5割を占める一方で、2,000回を超えて利用する人もいる。
- ・ 一人当たりの年間の平均利用金額は47,770円であるが、4万円以下の人が6割以上を占める一方で、50万円を超えて利用する人もいる。

(居住地域別の利用状況)

- ・ 交付率は、市の東部、特に地下鉄の沿線地域で高い。また、交付者一人当たりの市バス及び地下鉄の利用回数の計は、市の東部で多い。
- ・ 交付者一人当たりの地下鉄利用回数は、地下鉄の沿線地域で多く、交付者一人当たりの市バス利用回数は、地下鉄の沿線地域を除いた地域で多い。